

呉市と交流15周年

「2010くれ食の祭典」

大山町と姉妹都市である広島県呉市で、11月7日「くれ食の祭典」が開かれました。

この祭典に神田りんご生産組合を中心とした総勢15人が参加し、りんごなど町の特産品を販売し、大山町を広く紹介しました。

当日は天候にも恵まれ、会場は多くの人出でにぎわいました。中でも神田のりんごはあつという間に完売するほどの盛況ぶりでした。



町と呉市の歴史的な経緯をはじめ、大山町の魅力を肌で感じて帰られました。

呉市使節団来町

広島県呉市から11月12日、小村和年呉市長を始めとする使節団29人が来町されました。今回の訪問は交流15周年を記念し、大山町と呉市の交流をさらに深めるために行われました。

使節団の皆さんは神田のりんご園でのりんご狩りを始め、くれハウスや名和神社など町内の施設を見学されました。この交流を通して、大山

●大山町と呉市との交流経緯

→神田の歴史共有を縁に、両市町の関係は、昭和6年、ロンドン軍縮条約により

呉海軍工廠（こうしやう）において多くの工員が人員整理の対象となり、そのなかの約30家族が旧名和町（当時の名和村）へ集団移住をし、苦しい開墾事業に取り組んだことに始まります。

昭和63年に『呉市史』第6巻に名和開墾の事業が紹介され、呉市と名和町の市民、町民レベルの交流が進んできました。平成5年には当時の

佐々木呉市長が当時の林原名和町長を表敬訪問し、神田地区住民と懇談会をもたれました。佐々木市長は懇談会で「父が市長を勤めていた時の移住で、無理をいって入植してもらったと何回も聞いており、ずっと心にひっかかっていた。永年の思いが果たせてうれしいです。これを機に継続して交流をさせてもらいたい」と語り、交流の約束ができました。

そして、平成7年9月29日友好都市提携の共同宣言をしました。以後、情報の交換、相互の催しなどへの参加、物産の販売促進など交流が続いています。今年はこの宣言から15周年を迎えました。



▶写真左から小西正記副町長、小村和年呉市長、野口俊明議会議長

名和小5年生がスナッグゴルフを体験



12月14日、名和小5年生が、体育の授業でスナッグゴルフを体験しました。この日、子どもたちにスナッグゴルフを指導したのは、神田ゴルフクラブの森本晃一さん。

スナッグゴルフはスイングなど、ゴルフの基本を学ぶために開発されたスポーツで、スナッグフラッグと呼ばれるマジックテープのついた的にスナッグボールと呼ばれるボールを何打でくつつけられるかを競います。



▲使用するボールはテニスボールよりひと回り小さい「あたたた！」